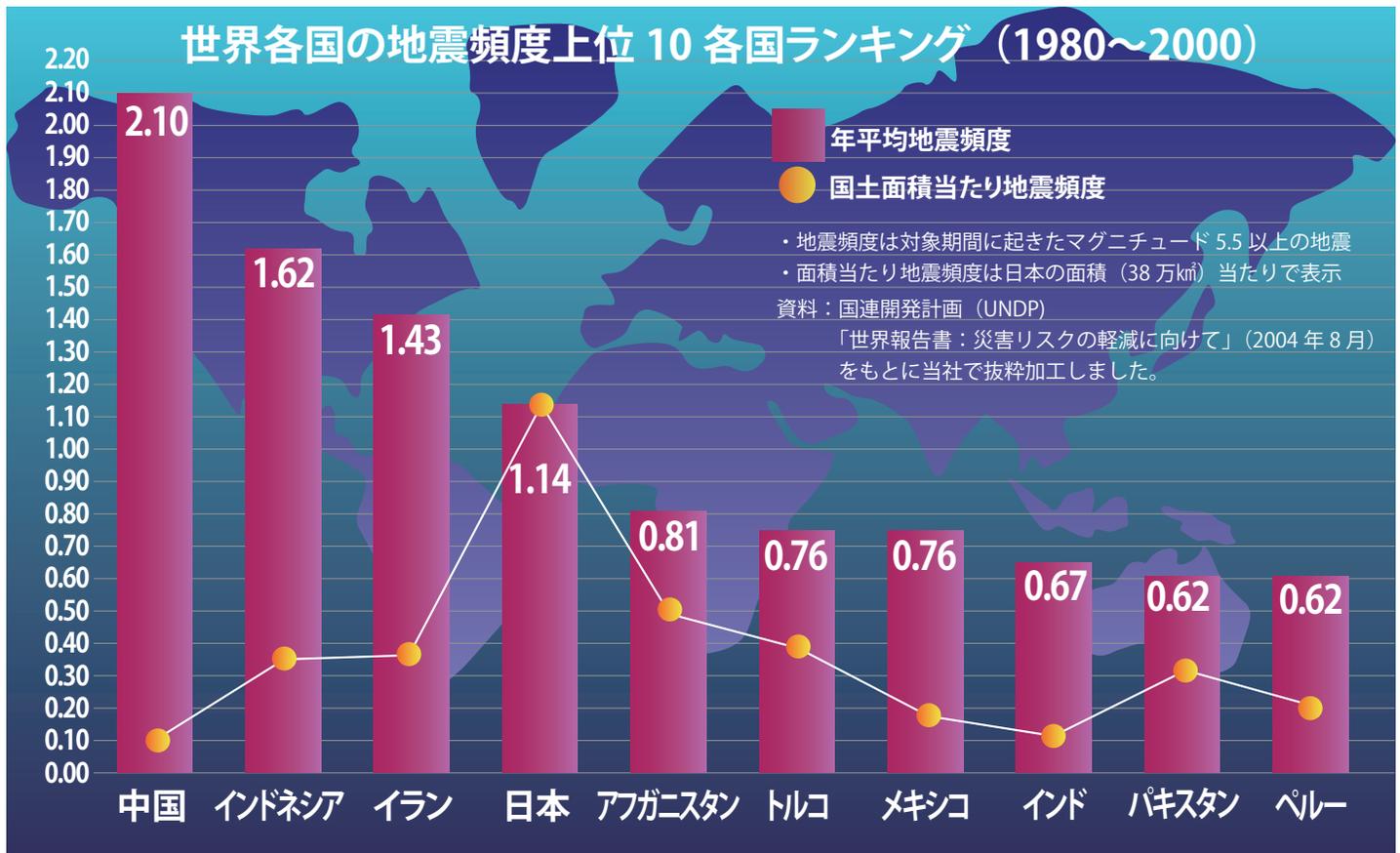


日本の大地震発生回数は世界 4 位だが、 人的・経済的被害は甚大に！



世界の地震発生回数と、国土面積当たりの地震頻度を示したのが上のグラフです。これは、1980 年～ 2000 年の間に起きたマグニチュード (M) 5.5 以上の地震を年平均の発生頻度で見たものが棒グラフです (調査期間の総地震発生数は、この数字を 21 倍したものになります)。これによると、1 位は中国の 2.10 回 / 年、2 位はインドネシアの 1.62 回 / 年、3 位がイランの 1.43 回 / 年、日本は 4 位の 1.14 回 / 年となっています。つまり、日本では M 5.5 以上の地震がほぼ年に 1 回以上発生していることとなります。これを、国土面積当たりの頻度で見たものが折れ線グラフ。国土面積が広大な中国は 0.08 回と少なくなり、日本を超えるのは、コスタリカの 2.44 回、ギリシアの 1.78 回です。

中国は日本の面積の約 25 倍と広く、人口の少ない内陸部や山間部での地震が多いので、人的・経済的な被害はそれほど高くはありません。しかし、狭い国土に人口が密集している日本では、地震発生頻度こそ 4 位ですが、地震による人的・経済的被害の可能性は遥かに高いとすることができます。この 2000 年までのデータ以降も、

- 2011 年：東日本大震災 (M 9.0 ~ 9.1) とそれに続く M 5.5 以上の多数の余震、
- 2013 年：淡路島地震 (M 6.3)、
- 2014 年：長野県新城断層地震 (M 6.7)、伊予灘地震 (M 6.2)、
- 2015 年：小笠原諸島西方沖地震 (M 8.1)、
- 2016 年：熊本地震 (M 6.5)、
- 2018 年：北海道胆振東部地震 (M 6.7)、大阪北部地震 (M 6.1)、
- 2019 年：山形沖地震 (M 6.7)、
- 2020 年：択捉島南東沖地震 (M 6.9)、
- 2021 年：福島県沖地震 (M 7.3)、宮城県沖地震 (M 6.9)、千葉県北西部地震 (M 5.9)

と大きな地震が各地で頻発し、甚大な被害をもたらしています。

地震列島ともいえる日本で暮らしていくには、地震を正しく知り、それに対する備えをきちんと立てておくことが、とても大切なことではないでしょうか。